人を汚すもの
マルコの福音書7章14節～23節
2015年10月18日（日）礼拝説教

皆さん、お早うございます。
10月も、なかばを、過ぎまして、教会の、お隣りの、矢吹さんのお宅の庭の、ナナカマドの葉っぱが、色付き始めて参りました。 会津の奥の、只見から、小さな苗で、買って来られたとのことで、いわきには無い、美しい紅葉を、毎年、楽しませて、いただいて、おります。 教会の、夏の庭を、美しく、彩ってくれていた、朝顔、コスモス、アメリカ芙蓉も、役割を終了しつつありますので、先週、少し、整理を、させて、いただきました。でも、来年の夏がやって来ると、これが、また、見事に、生き返って、来る、ことでしょう。 根は残っているし、種が、周囲に、撒き、散らされる、からです。
お花なら、楽しみなのですが、それが、私たちの心の中に巣食う罪、となりますと、一寸、性質が悪いのかも、しれません。
今日は、そんなことを考えながら、マルコの福音書7章の14節から、23節迄を、ご一緒に、紐解いて、参りたいと、存じます。
初めに、ひとこと、お祈りさせて、いただきます。
父なる神さま、御子イエスさま、聖霊なる神さま。あの、たいへんだった、猛暑も、どこへやら。すっかり、秋めいてまいりましたが、私たちが、こうして、健康が、あなたによって支えられ、あなたに礼拝を献げることをもって、新しい週のスタートを切ることが出来ます、幸いを、心から、あなたに、感謝いたします。 今日の礼拝、どうぞ、最初から最後まで、あなたが、導いてください。感謝して、イエスさまの尊い、御名前によって、お祈り、いたします。 アーメン。

マルコの福音書7章14節。
イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。「みな、 私の言うことを聞いて、悟るようになりなさい。

前回は、自分たちが受け継いで来た、マニュアルのような、或いは、取扱説明書のような、〝言い伝え〟を、金科玉条に、して、イスラエルの人々の心を縛り付けていた、パリサイ人たちに対して、イエスさまが、厳しく、批判されたことを、学びました。 この14節からは、新しい場面が、展開して、まいります。 ここからは、イエスさまは、パリサイ人たちのような、直接の論敵だけではなく、広く、一般に、群衆に向かって、神の国の真理、福音の真理を、宣教し始めて、おります。

マルコの福音書7章15節。
外側から人に入って、人を汚すことのできる物は何もありません。 人から出て来るものが、人を汚すものなのです。」

雑草は、刈り取っても、刈り取っても、根が、残って、いるので、また、芽生えて、まいります。 私たちが、どんなに、外面を、繕って、みても、罪の根っこは、私たちの内側に、しっかりと、根を下ろして、いるのです。 私たちが、放置しておけば、必ず、罪の芽が、芽生え、罪の実を結んで、しまうのです。 私たちの心に宿る罪は、私たちの生き方となり、私たちの良心
や、私たちの考え方、私たちの行いを、汚して、行くのです。

マルコの福音書7章17節。
イエスが群衆を離れて、家に入られると、弟子たちはこのたとえについて尋ねた。

イエスさまの教えに対して、弟子たちは、〝たとえ〟という言葉を使っております。〝たとえ〟とは、〝謎の言葉〟という、意味です。 私たち、現代人にとっては、豚肉であろうと、或いは中国の方々にとっては、蛇の肉であろうと、それほど、〝汚れた肉〟という、とらえ方は、していないのかも、しれません。しかし、イエスさまの時代の、イスラエルの人々にとっては、〝聖い食べ物〟と、〝汚れた食べ物〟とは、厳然として区別されておりましたので、

イエスさまの教えのような、〝口に入る物で、汚れた物は、何も ありません〟というような、考え方は、正に、青天のへきれき、〝謎の世界〟 で、あった、わけです。

マルコの福音書7章18節。
イエスは 言われた。「あなたがたまで、 そんなにわからないのですか。 外側から人に入って来る物は人を汚すことができない、ということがわからないのですか。

聖めが必要なのは、私たちの外側ではなく、私たちの内側なのですと、イエスさまは、ここで、私たちに、教えていて、くださっておられます。 うわべだけを繕い、真髄を、見失ってしまっているのが、私たちの、実態であり、弱さ、なのです。

マルコの福音書7章19節。
そのような物は、人の心には、入らないで、腹に入り、そして、かわやに出されてしまうのです。」
イエスは、このように、すべての食物を きよいと された。

〝かわや〟というのは、トイレのことです。食べ物は、すべて、私たちの肉体の、お腹の中に入って行って、ついには、老廃物となって、トイレに、出て行ってしまう、という事実を、イエスさまは、ここで、仰って、おられるのです。 すなわち、イエスさまは、昔からの言い伝えに従って、祭儀的に〝聖なるもの〟とされた、食べ物と、その逆に、〝汚れたもの〟として、忌み嫌われた、食べ物との間の、一切の区別を、撤廃されたのです。

マルコの福音書7章20節。
また 言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。

有害物質を、垂れ流しにしている、工場の近くにある井戸からは、汚染された水が、湧き上がって、来る、のかも、しれません。 同じように、私たちの心の中から、悪い欲望、悪い情、悪い行動の源泉が、湧き上がって来る、というようなことが、ないと、言えるのでしょうか。

マルコの福音書7章21節。
内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、

私たちの、心の内側から、湧き上がって来る、13の罪を、イエスさまは、ここで列挙され、それを、〝悪〟と、呼んで、おられます。先ず、〝悪い考え〟、これは、ずっと、いつも、いつも、じっくりと、策略を、練りに、練っている、悪い計画のことです。
〝不品行〟、これは、結婚以外の非合法的な、性行為に対する願望のことです。〝盗み〟、これは、もちろん、実行犯だけではなく、〝盗みたい〟という、欲望をも、含めた、概念です。
〝殺人〟、この言葉の、もともとの意味は、〝剣で、人を、刺し、殺す〟 という意味です。 刃物で、人を、刺し殺すのと、同じように、深刻な、内的な、心の状態を、指しております。〝ぶっ殺して、やりたい、ぐらいだ〟 というような、激しい憎しみの気持ちを、指して、おります。

マルコの福音書7章22節。
姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、

〝姦淫〟とは、目の欲に関わる罪のことで、既婚者が、結婚外で、持ちたいという、不倫願望の、ことです。
〝貪欲〟とは、節度を超えた、不健全な、願望のことです。
〝よこしま〟とは、サタンが、人間を動かして、なそうとする、あらゆる、悪い行為の、ことです。
〝欺き〟とは、〝罠〟という意味で、狡猾な、悪巧みを指します。外面からは、悪には見えない、善を装う悪であり、非常に巧妙なサタンの手口です。
〝好色〟とは、中国では、〝色迷迷〟（サーミーミー）と呼ばれておりまして、以前、不遜な態度の、日本人男性観光客の、一部の方々のことを、指していた、時期が、ありました。
〝ねたみ〟とは、〝悪い目〟ということで、自分が欲しい物を、よそさまが、持っていることに、不快感を抱き、冷

淡な態度や、言動で、反応することを、指しております。
〝そしり〞とは、悪霊の働きによる、真の、唯一の神さまと、その民に対する、冒瀆を指して、使われていた、言葉です。
〝高ぶり〞とは、限度を超えた、思い上がり、傲慢を、指します。
〝愚かさ〞とは、物事を冷静に判断する能力に欠けていることを指しております。

マルコの福音書7章23節。
これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。

以上の、13の罪は、みな、私たち、ひとり、ひとりの、心の内側から、出て行って、私たちの全身を、覆ってしまうので、それによって、私たちは、罪にまみれた人間に、なってしまうのだと、イエスさまは、ここで、仰って、おられるのです。それで、どうなのでしょうか。このことを通して、一体、イエスさまは、何を、仰りたいのでしょうか。〝それだから、あなたがたは、ダメなんだよ〞ということだけなのでしょうか。それとも、〝ほら、ご覧。あなたの心の内側から、そういう、悪い気持ちが、湧き上がって来るでしょう。その、悪い思いが湧き上がって来る、あなたの罪の性質のために、わたしは、十字架の上で、血を流して、あなたの罪を、贖ってあげたのだよ。〞と、仰って、おられるのでしょうか。

お祈りさせていただきます。
父なる神さま。御子イエスさま。聖霊なる神さま。 御言葉を、ありがとうございました。 あなたの、ご栄光を、賛美いたします。 私たち、ひとり、ひとりは、振り払っても、振り払っても、次々と、悪い思いが、心の内側から、湧き上がって来る、者です。こんな者のために、あなたが、十字架の上で、血を流して、私たちを、罪から贖い、救ってくださったことを、感謝いたします。気が緩んでまいりますと、どうしても、罪の傷口が疼いて来る、弱い者ですが、どうぞ、今週、一週間も、あなたに在って、歩み続けることが、出来ますように、守り、支えて、ください。
感謝して、イエスさまの、尊い、御名前によって、お祈りいたします。 アーメン。